

**磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
取組結果報告書 【令和2年度】**

令和4年3月

目 次

1	総合戦略について	1
2	令和2年度の達成状況の概要	1
3	総合戦略体系図	2
4	具体的な取組みの実績	
	みんなが活躍できるまちづくり	3
	移住・定住したくなるまちづくり	8
	若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり	12
	子どもたちが健やかに成長するまちづくり	15
	安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり	18
5	新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金を活用して実施した事業	22
6	地方創生交付金の効果検証	27
7	数値目標及び重要業績指標の達成状況	29

1 総合戦略について

「磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、地方創生に関する本市の目標や施策の基本的な方向、また、施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な取組みを定めたものであり、平成29年度からスタートした「第2次磐田市総合計画」の分野横断的な下位計画と位置付け、計画相互の整合性を図りながら推進していく必要があります。

そのため、現戦略の計画期間は令和元年度を最終年度としていましたが、令和3年度までを対象期間とする総合計画前期基本計画と合わせ、計画期間を2年間延長しました。

今後も、変化する社会経済情勢や市民ニーズへの確かつ柔軟に、スピード感を持って対応ができるよう、必要に応じて取組みの見直しを行っていきます。

2 令和2年度の達成状況の概要

「磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、5つの数値目標に加え、23の重要業績評価指標(KPI)を設定し、各施策の効果を客観的に検証できるようにしています。令和元年度には計画期間の延長に伴い、これまでに目標値を達成した、または、達成が見込まれる指標については、新たな目標値を設定しました。

令和2年度の実績値を見ると、令和元年12月頃に発生し、その後世界的に感染が拡大している新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、計画の最終年度である令和3年度での目標値の達成は大変厳しい状況にあると考えています。

今後も、新型コロナウイルス感染症に対して、適切かつ迅速な対応をとりながら、本戦略に位置付けられた取組みを着実に推進していきます。

【達成状況】

項目	基準値	R2実績値	R2目標値
みんなが活躍できるまちづくり			
新規雇用者数（累計）	—	2,341人 (H27～R2)	2,700人
移住・定住したくなるまちづくり			
転入者数（累計）	0人	1,175人超過	1,500人超過
若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり			
合計特殊出生率	1.56	1.46 (H30)	1.60
子どもたちが健やかに成長するまちづくり			
学校に対する満足度	—	88.9%	90.0%
安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり			
「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合	—	92.4%	90.0%以上

3 総合戦略体系図

基本目標	数値目標	施策	主な取組み		
みんなが活躍できるまちづくり	新規雇用者数 2,700人 (7年間累計)	1-1 中小企業等の競争力の強化	① ビジネスチャンスの創出 ② 地域企業との情報共有		
		1-2 企業誘致の推進と創業・起業支援	① 企業誘致の推進 ② 創業・起業支援の実施		
		1-3 元気な農林水産業の育成	① 企業の農業参入への支援 ② 安定した生産基盤の確立 ③ 地域資源を活かした魅力の発信		
		1-4 産業を担う人材の育成・就労の支援	① 求職者等就労支援体制の構築 ② 若者・女性への就労支援 ③ 障害者・高齢者への就労支援 ④ 創業・起業支援の実施【再掲】		
移住・定住したくなるまちづくり	転入者数 1,500人超過 (7年間累計)	2-1 「移住定住」と「UIJターン」の促進	① 移住・定住の情報発信と戦略の策定 ② UIJターン就職の促進 ③ 良好な住環境の整備 ④ 広域連携による移住・定住施策等の推進		
		2-2 磐田のブランド力の強化とシティプロモーションの推進	① シティプロモーションの推進 ② イメージキャラクターの活用推進 ③ スポーツを活用したまちづくり ④ 文化を活用したまちづくり ⑤ ふるさと納税制度の活用推進		
		2-3 新たな交流・集客の推進	① 観光・交流の推進 ② まちとお店のにぎわいづくりの推進		
		若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり	合計特殊 出生率 1.60	3-1 仕事と子育ての両立支援	① 幼稚園・保育園の保育環境の整備 ② 子育て環境の整備・充実 ③ ワークライフバランスの定着・促進
				3-2 結婚・妊娠・出産及び子どもの成長・発達支援の充実	① 男女の出会いの機会の創出 ② 妊娠から育児までの継続した支援 ③ 子育て相談体制等の充実 ④ 児童発達支援ネットワークの構築
				子どもたちが健やかに成長するまちづくり	学校に対する満足度(児童生徒・保護者) 90%
4-2 ふるさとへの誇りと愛情を持った子どもの育成	① 体験を重視する教育の推進 ② 高校や大学との連携の推進				
安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり	「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合 90%以上	5-1 安全で安心なまちづくり	① 地域の防災力・消防力の強化 ② 津波対策の推進 ③ 建築物などの耐震化の促進 ④ 安全なまちづくりの推進		
		5-2 だれもが暮らしやすいまちづくり	① 高齢者・障害者にやさしいまちづくり ② 生涯にわたる健康づくりの推進 ③ 地域に必要な生活交通の確保 ④ 環境にやさしいライフスタイルの推進		
		5-3 地域コミュニティの活性化	① 自治会活動等への支援 ② 地域の拠点づくりの推進		

4 具体的な取組みの実績

基本目標 1 みんなが活躍できるまちづくり

【数値目標】

市独自調査による新規雇用者数

基準値	実績値(累計)						目標値
H26	H27 (H27)	H28 (H27～28)	H29 (H27～29)	H30 (H27～30)	R1 (H27～R1)	R2 (H27～R2)	R3 (H27～R3)
—	356人	698人	1,072人	1,513人	1,960人	2,341人	2,700人

【参考】

市内法人数

H27	H28	H29	H30	R1	R2
3,622	3,620	3,634	3,648	3,662	3,647

令和2年度実施状況・評価

新型コロナウイルス感染症の影響で大きな痛手を受けている市内中小企業を支援するため、「販売力強化補助金」や「いわた雇用奨励金」を創設したほか、「がんばる企業応援団」による職員の企業訪問等を通して、中小企業の現状把握に努めました。

また、市内中小企業の技術など経営資源の持続的発展と雇用維持のため、中小企業の事業承継を支援しました。

そのほか、ワンストップによる立地相談や立地企業の用地取得費及び雇用増に対する支援など、企業誘致を継続しました。

農林水産分野では、次世代型農水産業を行う企業の立地が決定したほか、需要が減少し、経営が厳しくなっている茶生産者の他作物への転換支援や「静岡県農林環境専門職大学・短期大学部」との連携懇話会の設置などを新たに実施しました。

数値目標である新規雇用者数は着実に増加していますが、今後も新型コロナウイルス感染症の影響は避けられない状況にあることから、企業支援・就労支援に継続して取り組む必要があります。

今後の課題

- 新型コロナウイルス感染症の拡大が本市経済へ与える影響を把握し、スピード感をもった支援を実施する必要がある。
- あらゆる世代に対して多様な就労機会を提供するとともに、定着就労に向けた取り組みを検討していく必要がある。

施策 1 - 1 中小企業等の競争力の強化

地域の経済と雇用を支える中小企業等の活性化を図るため、事業承継や市内企業の競争力を強化する取組みを支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
産業展示会等出展支援事業による商談成立件数 (補助金交付事業者への追跡調査による)	15 件 (H26)	累計 157 件 (H27~R2)	累計 230 件
中小企業の製造品出荷額等 (経済産業省公表資料による)	4,874 億円 (H25)	4,868 億円 (H30)	4,900 億円 以上

具体的な取組み

新規 中小企業の販路力強化の支援	<p>■新製品・新サービスの開発や販路開拓に関する経費の一部を補助する「販売力強化補助金」を創設し、中小企業を支援した。 (新製品・新サービス開発事業 5 件、販路開拓事業 6 件)</p>
新規 中小企業等の人材確保支援	<p>■新型コロナウイルス感染症の影響を受けている市内中小企業の人材確保を緊急的に支援することにより、市民の安定就労を促進し、継続雇用・早期再就職の確保を図るため、正規労働者として雇い入れる中小企業に対して、「いわた雇用奨励金」として、正規雇用 1 人あたり 20 万円を支給した。さらに、介護サービス分野については、採用者に入社支度金として 5 万円を支給した。 (雇用奨励金:48 社 53 名分)</p>
中小企業の設備投資の促進	<p>■市が策定する「導入促進計画」に即した設備投資を行った中小企業に対し、償却資産に係る固定資産税を 3 年間全額免除することで中小企業の設備投資を支援し、生産性の向上を図った。 (導入計画認定件数:42 件)</p>
「おせっかい」事業の実施	<p>■事業者に対して、専門家との合同企業訪問を実施し、市内外の事業者等とのマッチングを行うなど、課題解決に向けた「おせっかい」事業を実施した。 (マッチングの成立事例:42 件)</p>
中小企業の事業承継の支援	<p>■市内中小企業等の事業承継を支援するため事業承継診断を行い、相談機関への橋渡しを実施した。また、事業承継セミナーを開催し、YouTube 配信を行った。 (事業承継診断 24 社、相談機関へのつなぎ 3 社)</p>
「がんばる企業応援団」の実施	<p>■職員が市内企業を訪問し、有益な情報を提供するとともに、ニーズ及び実態を調査する「がんばる企業応援団」を実施した。 (対象企業数:190 社 訪問職員数:128 名)</p>

施策 1-2 企業誘致の推進と創業・起業支援

企業誘致や新たな工業用地を確保するとともに、創業・起業への支援を行うことで、企業立地や創業・起業のしやすい環境を整備します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
新たな企業立地件数(1,000 m ² 以上) ※太陽光発電事業を除く (企業立地動向調査による)	—	累計 37 件 (H27~R2)	累計 38 件
創業支援等事業計画に基づく新たな創業・起業 件数 (市内の関係機関への調査による)	—	100 件/年	130 件/年

具体的な取組み

企業誘致の推進	<p>■企業誘致活動や立地相談により、7社 約 4.9ha の誘致を行うことが出来た。 (製造業 6 社、道路貨物運送業 1 社)</p>
立地企業に対する支援	<p>■市内への企業誘致を促進し、新規雇用創出を図るため、立地企業に対して補助金を交付した。 (産業立地促進事業費補助金※ 件数:3件) (産業立地奨励補助金※ 件数:7件)</p>
起業の促進及びサポート	<p>■コワーキングスペースを拠点に、専門家による創業相談などにより起業をサポートした。 (創業相談窓口 相談者数:延べ 188 人) (コワーキングスペース 新規登録者数:71 人 利用者数:延べ 1,963 人)</p>
	<p>■創業するために必要となる設備資金及び運転資金を借り受けた中小企業等に対して利子補給(開業パワーアップ支援資金利子補給金制度)を実施した。 (11 件 83,600 円(新規7件、継続4件))</p>
	<p>■市内の経営者や起業した方を小・中学校へ派遣し、勤労観や職業観を培う授業を実施した。 (実施校数:2校 受講者数:234 人、講師:延べ9人)</p>

※産業立地促進事業費補助金・・・立地企業の用地取得費及び雇用増に対する補助金

※産業立地奨励補助金・・・立地企業が負担する固定資産税及び都市計画税相当額に対する補助金

施策 1 - 3 元気な農林水産業の育成

農林水産業の事業化や商品化に向けた支援体制を整え、生産基盤の強化や資源の有効活用を行い、安定した経営を実現します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
異業種からの新規農業参入企業数 (新たに農地の権利を取得した企業数)	8件 (H26)	累計 19 件 (H26~R2)	累計 20 件
農業委員会調査による新規就農者数 (45 歳未満)	5人 (H26)	累計 33 人 (H26~R2)	累計 34 人

具体的な取組み

次世代型農水産業を行う企業の誘致	■新たな地域基幹産業を創出する次世代農水産業を行う1社(陸上養殖プラント)の立地が決定した。
就農者の定着促進	■就農5年以内で申請時に50歳未満の独立就農者に対して、就農後の定着を目的に年間最大150万円の「農業次世代人材投資資金」を交付した。 (対象人数:12人)
荒廃農地再生の支援	■荒廃農地の有効利用を促進するため、農地再生に取り組む農業者を支援した。 (【解消面積】立野地区:17a 請負新田地区:9a)
新規 茶から他作物へ転換する農家への支援	■茶の需要が減少し、茶生産者の経営が厳しくなっていることから、農家の経営多角化を促進するため、茶から他作物への転換を支援した。 (交付人数:7人)
新規 特産品(海老芋)承継事業の実施	■本市の特産品である海老芋の栽培農家の減少、高齢化に対応するため、遠州中央農業協同組合や関係機関、生産者等と連携し、日本一の産地の維持・拡大を目指して栽培技術などを習得する研修を実施した。 (研修人数:2人)
新規 竜洋東地区における農業基盤整備への着手	■農地所有者と耕作者が一丸となり、農地集積を推進しながら、20haを超える大規模な農業基盤整備に着手した。
新規 「未来の農業」連携懇話会	■農林業の専門職大学として新たに開学した、「静岡県農林環境専門職大学・短期大学部」や関係機関との連携により、様々な農業分野の課題を解決し、未来につながる農業の確立を目指すため、連携懇話会を設置した。

施策1-4 産業を担う人材の育成・就労の支援

求職者への支援を行うとともに、若者や女性、障害者、高齢者の働く場の創出と創業・起業しやすい環境づくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
女性起業家育成講座受講生による創業・起業件数 (講座受講生の追跡調査による)	4件 (H26)	累計9件 (H27~R2)	累計10件
障害者の福祉施設から一般就労への移行人数 (福祉施設への調査による)	44人 (H22~H26)	累計118人 (H27~R2)	累計140人

具体的な取組み

「パートタイマー就職相談面接会」の開催	<p>■市内企業の人材確保を目的に、パート人材を求める企業とパート就職を望む方とのマッチングを行う「パートタイマー就職相談面接会」を開催した。(1回開催、参加企業:延べ14社 参加者:35人)</p>
「転職・再就職相談カフェ」の開催	<p>■正社員を募集している市内企業と、市内外の概ね45歳までの転職・再就職希望者とのカフェ形式の就職相談会を開催した。(参加者:24人、参加企業:12社)</p>
「いわた・ふくろい就職フェア」の開催	<p>■袋井市、商工会議所及び商工会と共催して、2021年3月卒業で、卒業後3年以内の既卒者及び概ね45歳未満の中途求職者を対象とした、合同企業研究会をWEB上で開催した。 (参加学生:100人、参加企業:51社)</p>
「にこっとハローワーク」の実施	<p>■主に子育て世代の就労を支援するため、ハローワーク磐田と連携し、ひと・ほんの庭 にこっとにおいて、職業相談や紹介を行う「にこっとハローワーク」を実施した。 (開催回数:62回 相談件数:160件)</p>
高校生と市内企業との交流授業・見学バスツアーの開催	<p>■企業の人材確保支援及び高校卒業後の市内企業への就職を後押しするため、企業と高校生の交流授業や実際に働いている様子を見学するバスツアーを開催した。 (交流授業 参加企業:延べ28社、参加生徒:4校192人) (バスツアー 企業:3社 参加生徒:12人)</p>
生活困窮者の就労支援	<p>■一般就労者に向け課題を抱える生活困窮者等の状況や課題を明確にした上で、概ね3か月間の集中的な支援プログラムを作成し、最長で1年間の就労準備を支援する「就労準備支援事業」を実施した。 (参加人数:86人)</p>

基本目標 2

移住・定住したくなるまちづくり

【数値目標】

転入者数							
基準値	実績値(累計)						目標値
H26	H27 (H27)	H28 (H27~28)	H29 (H27~29)	H30 (H27~30)	R1 (H27~R1)	R2 (H27~R2)	R3 (H27~R3)
0人	△24人 転出超過	372人 転入超過	327人 転入超過	615人 転入超過	1,190人 転入超過	1,175人 転入超過	転入者数 1,500人 超過

令和2年度実施状況・評価

(仮称)磐田市文化会館の整備や今之浦市有地・今之浦公園の一体的整備など、新たな交流と賑わいを生み出すための、様々なハード事業に取り組みました。

また、本市の情報発信拠点として、ららぽーと磐田 1 階に開設している「磐田市情報館」をリニューアルオープンし、情報発信力の強化を図りました。

さらに、移住・定住相談会の実施、いわた・ふくろいインターンシップWEB企業説明会の開催、磐田市Uターン促進奨学金返済支援制度の継続、中古建物リフォーム事業の実施など、首都圏を中心とした大学生などの求職者や移住希望者を呼び込む取り組みを行いました。

数値目標である転入者数は、令和2年度は15人の転出超過となり、累計では1,175人の転入超過となりましたが、これは新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人の転入が減少したことが要因であると考えられます。今後も引き続き、移住・定住を促進する取組みを続ける必要があります。

今後の課題

- 新型コロナウイルスの影響により各種イベントの延期や中止など、本市の魅力発信の機会が減少している中、SNSなどの情報発信媒体を活用した効果的な取組みが今まで以上に重要になっている。
- (仮称)磐田市文化会館や今之浦市有地・今之浦公園は、イベントや集会の開催など、市民の交流促進やまちの賑わい創出につながる整備後の活用方法を検討する必要がある。



磐田市情報館のリニューアル



今之浦市有地・今之浦公園の
一体的な公園整備

施策 2-1 「移住定住」と「UIターン」の促進

首都圏等を中心とした大学生などの求職者や移住・定住希望者を呼び込み、就労や移住・定住につなげていきます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
UIターン就職促進事業による市内企業への就職者数 (就職促進事業参加学生への追跡調査による)	—	累計 168 人 (H27～R2)	累計 210 人

具体的な取組み

移住・定住相談の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■首都圏に在住し本市に移住を検討している方に対し、オンラインによる移住相談会を実施した。 (2回開催)
UIターンの促進	<ul style="list-style-type: none"> ■令和4年3月卒業予定の大学・短大・専門学校生を対象とした企業の冬季インターンシップを促進するため、「いわた・ふくろいインターンシップWEB企業説明会」を袋井市、商工会議所及び商工会と共催した。 (参加学生:38人、参加企業:18社) ■大学進学のため県外に転出した若者のUIターン就職を促進し、定住人口の増加を図るため、昨年度に続き「磐田市UIターン促進奨学金返済支援制度」を実施した。 (申請者:115名 補助額:8,552千円)
「中古建物リフォーム事業」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■新たな定住者を確保し、健全な地域コミュニティの保持及び空き家の有効活用を図るため、中古住宅や店舗・事務所などを購入し、リフォームを行う者に対し助成した。 (補助件数:23件、うち市外:2件 市内:21件 移住者数:4人)
空き家除却事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■新たな土地利用を促進し居住環境を向上するため、危険な空き家を除却する事業を推進した。 (補助件数:20件)



中古建物
リフォーム事業



いわた・ふくろい
インターンシップ
WEB企業説明会

施策 2-2 磐田のブランド力の強化とシティプロモーションの推進

マスメディアやウェブサイトなどによる魅力の発信や知名度の向上により、「訪れたい」「住みたい」と思われるよう、誇りと愛着の醸成を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
地域ブランド調査魅力度全国ランキング	430 位 (H26)	527 位	350 位内

具体的な取組み

SNSを活用したシティプロモーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ インスタグラムやフェイスブックなどの SNS を活用して市内外に市の魅力を発信し、フォロワー数の拡大を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラム（フォロワー数:6,882 人） ・ユーチューブ（チャンネル登録者:2,160 人） ・ツイッター（フォロワー数:4,804 人） ・フェイスブック（フォロワー数:1,366 人）
新規 磐田市情報館のリニューアル	<ul style="list-style-type: none"> ■ テレビ・ラジオ放送などを活用した市内外への情報発信を行う拠点として、オープンから10年を経過した磐田市情報館（らぼーと磐田 1 階）のリニューアルを行った。
しっぺいを活用した魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民に愛されるキャラクターしっぺいを使って、本市の魅力を市内外に発信した。 <ul style="list-style-type: none"> ・市内全幼稚園・保育園・こども園への訪問 ・市内小学校の「朝のあいさつ運動」に参加 ・製品だけでなくチラシや看板など 311 件のしっぺいデザイン使用承諾
「磐田スポーツ部活」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校に希望する運動部活がない生徒に対し活動の場を提供する磐田スポーツ部活を実施した。 (陸上競技部:52 名 ラグビー部 23 名)
文化芸術活動の育成支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子どもや市民が参加できる場を提供し、文化芸術活動の育成支援を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・IWATA DANCE EVOLUTION 2020(観覧者:569 人) ・いわた de 音楽フェスタ(観覧者延べ 738 人)
ふるさと納税の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市ホームページのほか民間のふるさと納税関連サイト等において当市の取組みを発信し市のPRを図った。 (寄附件数:26,656 件、寄附金額:814,559,500 円)

施策 2 - 3 新たな交流・集客の推進

市が持つ様々な魅力を活用し新たな交流を生み出すとともに、にぎわいづくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
観光交流客数 (県観光交流客数調査による)	357 万人	227 万人	395 万人

具体的な取組み	
新規 合併 15 周年記念事業の実施	<p>■ 合併 15 周年の節目を祝い、コロナ禍にあるからこそ市民が明るい未来へ向かって希望を持ち、磐田がさらに発展して輝くことを願い、各種事業を実施した。</p> <p>【実施した事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市制施行 15 周年記念式典 ・磐田っていいな♪フォトコンテスト 2020 ・しっぺいオリジナルグッズデザインの公募 ・しあわせの手持ち花火大会 など
新規 今之浦市有地・今之浦公園の一体的な公園整備	<p>■ 今之浦市有地及び今之浦公園を新たな交流、にぎわいづくりの拠点とするため、イベントスペース等も設置した一体的な公園として整備を進めた。</p>
(仮称)磐田市文化会館建設工事の推進	<p>■ 令和4年開館に向けて建物の建築工事を進めた。 ※令和4年7月開館予定</p>
磐田駅前の賑わいづくり	<p>■ 合併 15 周年記念事業の一つとして「磐田オータムコレクション～つながれ！遠州織物～」を開催し、中心市街地の賑わい創出と市の特産品である遠州織物の魅力を広く市民に周知した。 (作品発表数:80 点)</p> <p>■ 磐田駅北口多目的広場に設置されている七重の塔のモニュメントを改修し、イルミネーションの点灯式に合わせて市民に公開した。</p>
新規 プレミアム商品券事業の実施	<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により疲弊した地域経済の活性化のため、プレミアム分が付いた商品券「いわた応援チケット」を 2 回販売し、市内の消費喚起と市内経済の活性化を図った。</p>

基本目標3

若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり

【数値目標】

合計特殊出生率

基準値	実績値						目標値
H25	H27 (H26)	H28 (H27)	H29 (H28)	H30 (H29)	R1 (H30)	R2 (R1)	R3
1.56	1.50	1.47	1.58	1.56	1.46	1.46	1.60

令和2年度実施状況・評価

病児保育の開始、幼児教育・保育の無償化やこども医療費助成制度の継続、産婦健診助成制度の拡充により、安心して妊娠・出産し、子育てしやすい環境を整えました。

また、民間こども園の新設等に係る施設整備や小規模保育園の認可に伴う改修工事に対して支援を行うことで、増加する保育ニーズに対応した受け入れ体制の充実を図りました。

さらに、保育施設の新型コロナウイルス感染症対策を推進するため、市内の認可外保育施設に対し、プレミアム商品券を配布しました。

しかし、数値目標である合計特殊出生率は、1.46にとどまっており、今後も妊娠から出産、子育てまでサポートのさらなる充実に取り組む必要があります。

今後の課題

- 依然として保育需要が高い中、待機児童数ゼロの継続を目指し、さらなる定員の拡大とともに、保育士の確保に取り組む必要がある。
- 出産や子育てに関する様々な支援制度や相談体制がより多くの市民に利用されるよう、周知方法を検討する必要がある。



中学生スタートアップ応援事業
(応援メッセージ)



子育て支援センター「たっち」

施策3-1 仕事と子育ての両立支援

男性も女性も子育てに向き合えるよう、仕事と家庭生活を両立できるような環境の整備を進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
待機児童数ゼロの継続	待機児童 ゼロ	1人	待機児童 ゼロ
父母いずれか若しくは双方の育児休業取得率 (乳幼児健診時のアンケート調査による)	70.0% (H25)	87.6%	86.0%以上

具体的な取組み	
こども園・小規模保育園の施設整備への補助	<ul style="list-style-type: none"> ■保育ニーズに対応した受け入れ体制の充実を図るため、こども園及び小規模保育園の新設等に係る施設整備費の補助を実施した。 (2園実施)
新規 認可外保育施設の新型コロナウイルス感染症対策への支援	<ul style="list-style-type: none"> ■新型コロナウイルス感染症対策に取り組む認可外保育施設に対して、本市が発行したプレミアム商品券「いわた応援チケット」を各施設に配布した。 (市内11施設)
新規 病児保育の開始	<ul style="list-style-type: none"> ■子育て家庭への支援をさらに推進するため、病気の回復期に至っていない児童を預かる「病児保育」を新たに実施した。
幼児教育・保育の無償化の継続	<ul style="list-style-type: none"> ■0～2歳児の住民税非課税世帯の子ども及び3～5歳児のすべての子どもを対象に、幼稚園、保育所、認定こども園等の利用料金を無償化した。
「中学生スタートアップ応援事業」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■人生の新たなステージへと進む中学校入学を迎える児童の門出を応援するとともに、子育て家庭の経済的負担を軽減するため、児童一人当たり30,000円分の商品券を支給し、制服などの購入費用を支援した。 ■子どもたちの新たな出発をオール磐田で応援するため、市内各所で集めた応援メッセージを学生生活でも役立つ下敷きに載せて贈った。 (申請者数:1,545人)
男女共同参画の啓発	<ul style="list-style-type: none"> ■女性の社会活躍を推進するため、浜松いわた信用金庫ワーキングレディースクラブと共催で「人脈をつくるカラーコーディネート」講演会をオンライン開催した。 (参加者:200人)

施策3-2 結婚・妊娠・出産及び子どもの成長・発達支援の充実

これから結婚し、家庭を持ち、子どもを産み育てる人が、その夢をかなえることができるよう支援するとともに、すべての子どもが健やかに成長するよう支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
これからも磐田市で子育てをしたいと思う親の割合 (乳幼児健診時のアンケート調査による)	66.8% (H25)	97.2% (R2)	98.0%
婚姻数 (県人口動態統計調査による)	861件 (H25)	675件 (H30)※	900件

※調査時点での最新数値

具体的な取組み

産婦健診助成制度の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出産直後の母子に対する支援体制をより充実させるため、これまでの産後2週間健診に加え、新たに1か月健診を助成対象とした。 (受診者数:〈産後2週間〉982人、〈産後1か月〉968人)
子ども医療費助成制度の継続	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高校生年代までのこどもに対して医療費の助成を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・中学生までの自己負担:無料 ・高校生年代の自己負担:通院 500円/回、入院 500円/日 (受給者数:27,428人、支給件数:291,595件)
ひとり親家庭の支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ ひとり親家庭への支援を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・母子家庭等医療費への助成 595人 ・母子家庭等自立支援への給付 6件 ・ひとり親家庭子育てサポート支給件数 14件
子育て相談体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ■ 産前6週間から出産後120日までの子を持つ母親が安心して子育てができるよう、子育て相談員派遣事業を実施した。 (申請者76人 派遣回数656回) ■ 家庭での生活やしつけ、心身の発達、虐待や養育問題など、こどもに関する様々な悩みの相談に対応するこども相談ダイヤル相談事業を実施した。 (対応件数:390件)
新規 子育て支援センターの整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子育ての負担軽減や子育てしやすい環境づくりを促進するため、子育て支援センターが無い東部地区へ新たに整備した。 ※磐田市東部子育て支援センター(愛称:たち)
発達障害児童に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発達に遅れや心配のある子どもや保護者に対して、磐田市発達支援センター「はあと」において、様々な支援を実施した。 (通園事業:629件、相談事業:2,398件、連携支援2,047件)

基本目標4

子どもたちが健やかに成長するまちづくり

【数値目標】

学校に対する満足度

基準値	実績値						目標値
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
—	87.2%	82.1%	88.2%	87.2%	88.6%	88.4%	90.0%

令和2年度実施状況・評価

新時代の新たな学校づくりのモデルとなる、ながふじ学府小中一体校が令和3年4月に開校しました。

また、向陽学府においては、小中学校、幼・保・こども園の保護者、地域住民、教職員等の代表から構成する「向陽学府新たな学校づくり検討会」が始まり、基本構想・基本計画策定に向けた協議・検討が行われました。

そのほか、外国語指導助手の派遣や市費負担教員である「ふるさと先生」の配置、教育支援員の配置などにより、生徒個々の実態に応じたきめ細やかな指導を行いました。

放課後児童クラブは、利用者増加への対応として、新たな児童クラブを開設するとともに、利用者が増加する夏休み期間中には臨時に11クラブを開設しました。

新型コロナウイルス感染症対策の影響により、小学生によるジュピロ磐田ホームゲーム一斉観戦や小中学生による広島平和記念式典への派遣、中学生の海外派遣研修は中止せざるを得ませんでした。が、「ふるさといわた学生応援事業」では、県外に暮らし、本市への帰省を自粛している学生に本市の特産物や応援メッセージを送付することで、ふるさとへの誇り・愛着の醸成を図りました。

数値目標である学校に対する満足度は上昇傾向にありますので、引き続き、ふるさとへの誇りと愛情を持ち、地域づくりに取り組む人材育成を行うとともに、帰ってきたくなるまちづくりに取り組む必要があります。

今後の課題

- 学校施設の多くは建設後 30 年以上が経過し、老朽化による様々な影響が懸念されているため、計画的かつ適切な維持管理を進め、長寿命化に努めていく必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症対策の影響により、実施できなかった事業が多くあったため、今後はWEBを活用するなど、開催方法を検討する必要がある。

施策4-1 特色ある教育の推進

子どもを学ばせたいくなるような魅力ある教育を推進するとともに、「地域とともにある学校づくり」を進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
英語への興味・関心・意欲のある児童生徒の割合 (市独自のアンケート調査による)	70.18% (H26)	81.1%	88.0%以上
地域や社会への興味・関心のある児童生徒の割合 (全国学力学習状況調査による)	60.9% (H27)	67.8%	75.0%

具体的な取組み

ながふじ学府小中一体校の建設推進・完成	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月開校に向け、ながふじ学府(豊田中学校区)における小中一体校の建設工事を進めた。
新規 向陽学府の新たな学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校、幼・保・こども園の保護者、地域住民、教職員等の代表から構成する「向陽学府新たな学校づくり検討会」を立ち上げ、向陽学府一体校等整備基本構想・基本計画策定に向けた協議、検討を行った。 (4回開催)
外国語指導助手の派遣	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・小学校・中学校に外国語指導助手(ALT)を派遣し、英語を使ったコミュニケーション能力の向上を図った。また、ALTが各中学校を訪問して、生徒の英会話の力を評価する「S.P.E.A.K プロジェクト」を実施した。 (外国語指導助手:18人)
生徒指導充実のための「ふるさと先生」の配置	<ul style="list-style-type: none"> 不登校や問題行動等の生徒指導上の配慮を必要とする児童・生徒が増加傾向にある中、学校現場の生徒指導主事等の負担を軽減し、より個の実態に応じたきめ細やかな指導を行うために、市費負担教員(ふるさと先生)を配置した。 ※ふるさと先生12名のうち、生徒指導充実枠として中学校2校に1名ずつ配置)
教育支援員の配置	<ul style="list-style-type: none"> 通常学級や特別支援学級に対して、担任とともに特別な支援を要する児童生徒をサポートする教育支援員を配置した。 (小学校63名・中学校23名) さらに介助が必要な児童が在籍する学校に学校介助員を配置した。 (小学校1名)
放課後児童クラブの定員拡大	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブの利用者増加への対応として、新たに磐田中部小第4児童クラブを新規開設するとともに、夏休み期間中には11クラブを臨時開設した。

施策4-2 ふるさとへの誇りと愛情を持った子どもの育成

次代を担う子どもたちにふるさとへの誇りと愛情を持ってもらい、より良い地域づくりに取り組もうとする人材を育成します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
学校卒業後磐田市に就職を希望する高校生の割合(市独自の高校生へのアンケート調査による)	34.0% (H27)	38.7%	50.0%

具体的な取組み

もう 「ヤング草莽塾」の実施	<p>■ 高校生の柔軟な発想を市政に生かすとともに、将来のまちづくりを担う人材を育成するため、行政課題の解決策等について研究する「ヤング草莽塾」を実施した。 (参加者:市内6校、7グループ 37名)</p> <p>【提案の実現】 ○しっぺいをデザインしたトイレトペーパーの作成(磐田北高)</p>
静岡産業大学「冠講座」への講師の派遣	<p>■ これからのまちづくりを担う大学生に、本市の魅力や特徴をより深く理解してもらうため、静岡産業大学の「冠講座」に市職員を派遣し、講義を実施した。 (7回開催)</p>
新規 県外で暮らす学生に対する支援	<p>■ 新型コロナウイルス感染症対策の影響により、困難や不安を抱えている本市出身の県外在住で頑張っている学生を応援するため、本市の特産品と応援メッセージを送る「ふるさといわた学生応援事業」を実施した。 (特産品の例:うなぎ、メロンなど 申請件数:1,477件)</p>
新規 若者との意見交換会の開催	<p>■ 令和4年度からの5年間を計画期間とする第2次磐田市総合計画後期基本計画を策定するにあたり、高校生や大学生、子育て世代など、これからのまちづくりの主役となる若者の柔軟な意見や提案を聞き取るため、市職員との意見交換会を開催した。 (開催回数:7回 参加人数:171名)</p>



ヤング草莽塾



ふるさといわた学生応援事業

【数値目標】

「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合

基準値	実績値	目標値
H26	R2	R3
87.9%	92.4%	90.0%以上

令和2年度実施状況・評価

安全で安心なまちづくりを進めるため、海岸堤防(防潮堤)を竜洋海洋公園工区及び海岸防災林工区で海拔 14mの完成形は、令和2年度は 672m、総延長は 2,666mまで整備するとともに、避難所・救護所や救急搬送などにおける新型コロナウイルス感染症対策、公会堂の長寿命化に対する補助金制度の創設などに取り組みました。

また、高齢者やその家族が抱えている将来に関する不安や悩みに相談員が対応する「終活おうえん窓口」の開設や高齢者の自動車急発進抑制装置設置に対する補助制度の創設、障害児者・高齢者施設の新型コロナウイルス感染症対策への支援など、誰もが暮らしやすさを実感できるためのまちづくりを推進しました。

さらに、地域づくり応援一括交付金の交付などにより、交流センターを拠点とした地域活動を支援し、地域コミュニティの活性化を図りました。

今後も、防災対策や都市基盤の整備、地域の特性を生かした地域づくりを促進することで、「住んで良かった」と思えるまちづくりを進めます。

今後の課題

- 地域活動を停滞なく円滑に進めるため、地域づくり協議会への支援を継続し、地域活動の担い手の育成や確保を進める必要がある。



防潮堤の整備

終活おうえん窓口で配布する
エンディングノート

施策5-1 安全で安心なまちづくり

防災・減災対策を市民と連携して進めるとともに、消防・防災体制の強化を図り、災害に強い安全で安心な地域をつくります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
緊急輸送路上の橋梁の耐震化率(橋長 15m以上)	70.6% (H26)	94.1%	94.1%
犯罪発生件数 (磐田警察署の犯罪白書より)	1,044 件 (H26)	744 件	700 件以下

具体的な取組み

新規 公会堂の長寿命化(改修)に対する補助制度の創設	<ul style="list-style-type: none"> ■災害時の一時避難場所としての重要性が増している地区公会堂の長寿命化を図るため、外壁や屋根の改修経費に対する補助制度を創設した。 (交付件数:6 自治会)
新規 被災者生活支援補助金の創設	<ul style="list-style-type: none"> ■昨今の激甚化・広域化する自然災害を踏まえ、市民がさらに安全に、安心して生活できるよう、国や県の支援制度に該当しない被災者のうち、住宅の半壊に対し、生活支援制度を創設した。
新規 避難所・救護所における新型コロナウイルス感染症対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■大雨や地震等の自然災害が発生した場合の避難所・救護所における感染症対策として、感染者の受入方法を見直すとともに、衛生用品や資機材を整備した。 (マスク、消毒液、パーテーション、防護衣、非接触式体温計など)
新規 救急搬送における新型コロナウイルス感染症対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■新型コロナウイルス感染症罹患者及び感染の疑いがある傷病者の救急搬送等に係る感染防止を図るため、資機材等を整備した。 (陽・陰圧装置付搬送具、オゾンガス発生器、自動心臓マッサージ器など)
海岸堤防(防潮堤)の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■竜洋海洋公園工区及び海岸防災林工区で延長 672mの海岸堤防(防潮堤)を整備した。
木造住宅の耐震化の支援	<ul style="list-style-type: none"> ■木造住宅の耐震化を推進した。 (耐震診断:81 件 耐震補強計画:13 件 補強工事:18 件)
照明灯・防犯灯等のLED化	<ul style="list-style-type: none"> ■明るく安全なまちづくりを促進するため、照明灯のLED化を進めるとともに、防犯灯を設置する自治会に対して補助金を交付した。 (照明灯のLED化:107 灯) (補助金交付件数:69 自治会(180 灯))

施策5-2 だれもが暮らしやすいまちづくり

子どもや女性、高齢者、障害者など、すべての市民が住みやすいと思えるようなまちづくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
お達者な人(65歳以上の要介護認定なし+要介護1以下)の割合	92.0% (H26)	91.9%	93.0%以上

具体的な取組み	
新規 重度身体障害者・難病者防災用具 給付制度の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ■重度身体障害者及び難病患者に対し、大規模災害時に必要となる発電機等の購入費用を補助した。 (延給付件数 11件)
新規 高齢者の自動車急発進抑制装置 設置への補助制度の創設	<ul style="list-style-type: none"> ■アクセルとブレーキの踏み間違いによる高齢運転者の重大事故を未然に防ぐため、自動車への後付け急発進抑制装置の設置に対する補助制度を創設した。 (延給付件数 68件)
新規 終活おうえん窓口の開設	<ul style="list-style-type: none"> ■市民相談センターに「終活おうえん窓口」を開設し、関係機関との連携やエンディングノートの作成・配布などを進めることで、市民の老後の不安を解消し、本人と家族が安心して余生を過ごせるようサポートした。 (相談件数:446件)
新規 75歳以上の方への人間ドック受 診費用の助成制度の創設	<ul style="list-style-type: none"> ■生活習慣病及びがんの早期発見・早期治療による、健康増進や健康寿命の延伸などを目的として、後期高齢者医療の被保険者に対し、人間ドック受診費用の助成制度を創設した。 (後期高齢者人間ドック受診件数:447件)
新規 障害児者・高齢者施設の新型コ ロナウイルス感染症対策への支援	<ul style="list-style-type: none"> ■障害児者・高齢者施設における新型コロナウイルス感染症対策を支援するため、本市が発行したプレミアム商品券「いわた応援チケット」を各施設に配布した。 (障害児者施設 16法人、高齢者施設: 25法人)
「まちの保健室」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもから高齢者までの様々な健康相談や健康講座を、交流センターなどへ保健師が出向いて行う、「まちの保健室」を実施した。 (開催回数:109回、参加者数:1,726人)
デマンド型乗合タクシー「お助け号」 の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ■デマンド型乗合タクシー「お助け号」の利便性を向上するため、指定施設や運行時刻の追加を行った。 (お助け号利用者数:29,001人)
エコアクション 21 の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■民間事業者への認証・登録制度の普及を推進するため、エコアクション 21 の取得に取り組む事業者に対し、補助金を交付した。 (交付件数:1件)

施策5-3 地域コミュニティの活性化

市民一人ひとりが、地域の課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる環境を整備し、地域コミュニティの活性化を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R2	目標値 R3
自治会加入率(世帯)の維持	83.16% (H27)	80.36%	83.16%
交流センター利用者数	603,624人 (H26)	569,353人	650,000人

具体的な取組み

地域の主体的な取組みを支援	<p>■ 地域課題の解決や特色を生かした魅力ある地域づくりを行う地域づくり協議会に対して、地域づくり応援一括交付金を交付した。</p>
新規 竜洋西会館の建設	<p>■ 竜洋交流センターのサブセンターとしての役割を果たす施設として、竜洋西会館の建設工事を実施した。</p>
「(仮称)磐田市協働のまちづくり基本条例」制定に向けた検討会の開催	<p>■ 地域主体のまちづくりを推進するため、条例の制定に向けて「(仮称)磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会」を開催した。 (庁内検討委員会:5回 策定検討委員会:3回)</p>
交流センター講座の開催	<p>■ 市民に多様な学習機会の場を提供するため、交流センターにおいて各種講座を開催した。 (講座数:825講座 受講者数:5,989人)</p>
生涯学習情報誌の発行	<p>■ 地域のイベントや活動の周知を図るため、生涯学習情報誌を発行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの庭」交流センター等で開催する講座を紹介 ・「学びの師」生涯学習指導者の指導内容を掲載 ・「学びの友」スポーツ・文化・芸術などのグループ活動を掲載



竜洋西会館の建設



生涯学習情報誌の発行

5 新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金を活用して実施した事業

※新型コロナウイルス対応地方創生臨時とは

地方自治体が地域の実情に応じて、きめ細かに効果的・効率的に必要な事業が実施できるよう、感染症対策や地域経済活性化などの新型コロナウイルス対応事業に地方自治体が要する経費に充てる交付金のこと。

No	1		
事業名	避難所救護所の感染予防対策事業		
事業概要	大雨や地震等の自然災害が発生した場合の避難所・救護所における感染症対策用として、衛生用品・資機材を整備 (マスク、消毒液、パーテーション、防護衣、非接触式体温計等)		
担当課名	危機管理課	事業費	9,952千円

No	2		
事業名	中小企業支援事業		
事業概要	県制度融資である経済変動対策貸付資金を借り受けた中小企業等に対し、利子補給金を交付 (補給率：1.4%以内(実質無利子) 補給期間：3年)		
担当課名	産業政策課	事業費	380,000千円

No	3		
事業名	休業要請協力金支給事業		
事業概要	休業要請に応じた市内で施設・店舗を運営する中小企業者及び個人事業主に対し、「休業要請協力金」を支給 協力金：30万円 休業要請期間：令和2年4月25日～5月6日		
担当課名	経済観光課	事業費	161,700千円

No	4		
事業名	県外でがんばる学生への支援事業		
事業概要	本市出身の県外で頑張っている学生に対し、磐田の特産品を贈るとともに、メッセージを併せて送ることで、ふるさと磐田を感じてもらえるような支援を実施 対象者：磐田市出身の県外に住む学生(大学・短大・大学院・専修学校) 支援者数：1,477人		
担当課名	秘書政策課	事業費	6,440千円

No	5		
事業名	病院事業会計への繰出		
事業概要	<p>磐田市立総合病院における医療従事者への感染を防止するため、必要な資機材の整備に要する費用を病院事業会計に繰り出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員や入院・外来患者の感染防止対策の実施 <p>整備予定資機材：リアルタイムPCR装置、人工呼吸器、HEPA フィルター付クリーンパーテーション、オゾンガス消毒器、体表面温度発熱監視装置、仮設プレハブハウス、診察待ち状況案内システム、診療費後払いシステム、診療費自動支払機の増設</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の負担軽減と家庭内感染防止を目的に、新型コロナウイルス患者等に対応する職員がホテル等宿泊施設に宿泊した場合の助成を実施 		
担当課名	健康増進課	事業費	55,076千円

No	6		
事業名	感染防止対策応援事業		
事業概要	<p>市内に拠点を置く、障害児者・高齢者施設、認可外保育施設の新型コロナウイルス感染症対策を推進するため、本市が発行するプレミアム商品券の配布により支援を実施。</p> <p>障害者施設 13 法人 障害児施設 4 法人 高齢者施設 27 法人 認可外保育施設 11 施設</p>		
担当課名	福祉課、幼稚園保育園課 高齢者支援課、こども未来課	事業費	5,200千円

No	7		
事業名	緊急雇用対策事業		
事業概要	<p>離職した市民への支援を目的とした緊急雇用対策として、市の会計年度任用職員として働くことを希望する方を募集</p> <p>雇用人数：5名</p>		
担当課名	道路河川課	事業費	4,797千円

No	8		
事業名	図書消毒機導入事業		
事業概要	<p>図書館来館者に安心して利用していただける環境を整えるため、紫外線の照射により図書の表紙と内部殺菌・消毒が可能な図書消毒機を導入</p> <p>導入施設：4 図書館、ひと・ほんの庭 にこっと</p>		
担当課名	中央図書館	事業費	4,125千円

No	9		
事業名	救急活動推進事業		
事業概要	患者及び感染の疑いがある傷病者の救急搬送等における感染防止を図るための資機材を整備 整備資機材：陽陰圧装置付搬送具、オゾンガス式除染装置、自動心臓マッサージ器、防護具（マスク・ゴーグルなど）		
担当課名	警防課	事業費	12,117千円

No	10		
事業名	プレミアム商品券事業		
事業概要	コロナ禍により疲弊した地域経済の活性化と市民生活の支援を目的として、市内で幅広く使用できるプレミアム商品券を発行、販売 販売部数：約17万部 発行総額：22.1億円 プレミアム率：30%		
担当課名	経済観光課	事業費	565,534千円

No	11		
事業名	GIGA スクール構想に基づく学校情報通信ネットワーク環境整備事業		
事業概要	ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を実現（1人1台端末の整備、端末充電用電源キャビネットの設置）		
担当課名	学校教育課	事業費	146,390千円

No	12		
事業名	窓口における手数料のキャッシュレス決済導入事業		
事業概要	現金収受における接触の低減と市民の利便性向上を図るため、窓口における手数料支払いにキャッシュレス決済を導入 対象課：市民課、市税課、支所、環境課		
担当課名	市民課	事業費	3,804千円

No	13		
事業名	スポーツ・文化施設におけるサーマルカメラ導入事業		
事業概要	多くの集客が見込まれるスポーツ・文化施設へサーマルカメラ（体表面温度測定機）を設置 設置数：2台（移動式）		
担当課名	スポーツ振興課 文化振興課	事業費	860千円

No	14		
事業名	磐田市急患センター施設改修事業		
事業概要	感染症の疑いのある患者とそれ以外の患者の動線を分ける改修を実施 改修内容：間仕切りの設置、クリーンパーテーション・自動支払機等の購入 設置等		
担当課名	健康増進課	事業費	9,914千円

No	15		
事業名	高齢者のインフルエンザ予防接種の勧奨事業		
事業概要	季節性インフルエンザとの同時流行に備え、インフルエンザによる重症化を防ぐため、接種促進に取り組む		
担当課名	健康増進課	事業費	20,903千円

No	16		
事業名	【いわた雇用奨励金】中小企業等の人材確保支援事業		
事業概要	コロナ禍における市内企業等の人材確保を支援するため、市民を正社員として雇用した事業主に対し「いわた雇用奨励金」を支給 介護サービス分野に採用された方には入社支度金を支給 奨励金：20万円/人 入社支度金：5万円/人		
担当課名	経済観光課	事業費	10,950千円

No	17		
事業名	茶から他作物への転換支援事業		
事業概要	茶生産者の経営多角化を促進するため、茶園から他の作物への転換を支援する「茶園転換支援事業費補助金」を支給 補助対象経費：茶樹の伐採・伐根、整地、土壌改良等 補助率：1/2（上限300万円）		
担当課名	農林水産課	事業費	2,334千円

No	18		
事業名	中小企業等の新製品開発・販路開拓等への支援事業		
事業概要	経済的・社会的環境の変化に直面している中小企業等が新たに取り組む新製品・新サービスの開発や販路開拓を支援するため、「販売力強化補助金」を交付 補助対象経費：新たな製品・サービス開発、販路開拓など 補助率：1/3（上限100万円）		
担当課名	産業政策課	事業費	3,805千円

No	19		
事業名	学校保健特別対策事業費補助金		
事業概要	<p>小中学校における感染症予防対策を徹底するため、保健衛生用品を追加購入 ・市内 32 小・中学校（液体石鹸、手指消毒液など）</p>		
担当課名	教育総務課	事業費	23,978千円

No	20		
事業名	無症状者に対する PCR 検査実施事業		
事業概要	<p>福祉、医療、教育施設等における従事者の感染防止と、施設及びサービスの維持のため、市独自の「無症状者に対するPCR検査体制」を整備 対象者：高齢者施設・障がい者施設・病院・幼稚園・保育園・小中学校等の職員及び施設の新規入所者 受検要件：対象者が保健所の検査対象とならないが感染の疑いがあり、施設責任者が検査を必要と認めた場合</p>		
担当課名	健康増進課	事業費	572千円

No	21		
事業名	疾病予防対策事業費等補助金		
事業概要	<p>感染すると重症化するリスクが高いと言われている高齢者や基礎疾患を有する方の重症化を防ぐため、PCR検査を実施 対象者：65歳以上の方、年齢を問わず基礎疾患を有する方</p>		
担当課名	健康増進課	事業費	245千円

No	22		
事業名	修学旅行等の中止等に係る経費補助事業		
事業概要	<p>修学旅行等を中止又は延期した場合に発生する経費について補助し、保護者の経済的負担を軽減 補助率：中止等に係る経費の1/2</p>		
担当課名	教育総務課	事業費	1,704千円

No	23		
事業名	指定管理者支援事業		
事業概要	<p>市からの要請で休業した指定管理者のうち、収入が減少し感染症予防対策が十分に行えず、施設の正常な運営に支障をきたす者に対して支援金を交付</p>		
担当課名	資産経営課	事業費	8,987千円

6 地方創生交付金の効果検証

・地方創生拠点整備交付金

地域経済の活性化という喫緊の課題に対応するため、地域の観光振興や住民所得の向上等の基盤となる先導的な施設整備等を支援するもの。

事業年度	事業名称及び事業概要	事業決算額(千円)	うち交付金充当額(千円)	評価指標(KPI)	基準値(H28)	目標値(R2) ※前年からの増加分	実績値(R2) ※前年からの増加分	事業評価の判定
H28 (H29 繰越)	【事業名称】 働く女性を応援します！創業支援の拠点「コワーキングスペース」の整備 【事業概要】 ワークピア磐田を「創業支援」等の拠点施設とするため、コワーキングスペース等を整備する。	10,584	5,292	新たな起業・創業件数	58件	50件	100件	一部のKPIが目標に達しなかったものの、概ね成果が得られたことから、地方創生に相当程度の効果があった
				女性起業家育成講座受講生による創業・起業件数	2件	2件	2件	
				中心市街地へのオフィス業の誘致件数	0件	1件	0件	

事業年度	事業名称及び事業概要	事業決算額(千円)	うち交付金充当額(千円)	評価指標(KPI)	基準値(H30)	目標値(R2) ※前年からの増加分	実績値(R2) ※前年からの増加分	事業評価の判定
H30 (R1 繰越)	【事業名称】 市民が集う新たな拠点整備 【事業概要】 ワークピア磐田に「市民活動センター」、「男女共同参画センター」、「国際交流協会」の3つの機能や団体を集約し、それぞれの特徴を生かしたワンストップ窓口として活動する拠点を整備する。	32,583	9,061	新規創業・起業件数	131件	130件	100件	新型コロナウイルス感染症の影響により、KPIが目標に達しなかったものの、一定の成果が得られたことから、地方創生に相当程度の効果があった
				ワークピア磐田での職業相談を通じた外国人の就職者数	2人	3人	0人	
				外国人の日本語教室受講者数	244人	245人	56人	

事業年度.	事業名称及び事業概要	事業決算額(千円)	うち交付金充当額(千円)	評価指標(KPI)	基準値(H30)	目標値(R2) ※前年から の増加分	実績値(R2) ※前年から の増加分	事業評価の判定
R1 (R2 繰越)	【事業名称】 「人が育ち、新たな交流が生まれ、『まち』の活性化につながる拠点」(大型複合施設)の整備 【事業概要】 今之浦市有地・公園を多くの人々が集まる拠点として一体的に整備する	1,007,361	187,961	大型複合施設利用者数	0人	0人	0人	整備完了が令和2年度末であったため、効果を検証できない
				元気で自立して暮らす人の割合(要介護認定なし+要介護1以下)	92.6%	0%	0%	
				大型複合施設でのイベント回数	15件	0回	0回	

7 数値目標及び重要業績評価指標の達成状況

基本目標、施策	数値目標、重要業績評価指標(KPI)	基準数値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値(R3)
1 みんなが活躍できるまちづくり	市独自調査による新規雇用者数(累計)	-	356人	698人	1,072人	1,513人	1,960人	2,341	2,700人(累計)
1-1 中小企業等の競争力の強化	産業展示会等出展支援事業による商談成立件数(累計)	15件	25件	53件	81件	129件	157件	157	230件(累計)
	中小企業の製造品出荷額等	4,874億円	5,019億円(H26)	5,019億円(H26)	5,019億円(H26)	4,863億円(H28)※	4,798億円(H29)	4,868億円(H30)	4,900億円以上
1-2 企業誘致の推進と創業・起業支援	新たな企業立地件数(1,000㎡以上)(太陽光発電事業を除く)(累計)	-	2件	9件	19件	24件	30件	37件	38件(累計)
	創業支援等事業計画に基づく新たな創業・起業件数	-	58件/年	109件/年	131件/年	82件/年	93件/年	100件/年	130件/年
1-3 元気な農林水産業の育成	異業種からの新規農業参入企業数	8件	9件	9件	10件	14件	18件	19件	20件(累計)
	農業委員会調査による新規就農者数(45歳未満)(累計)	5人	11人	17人	24人	27人	28人	33人	34人(累計)
1-4 産業を担う人材の育成・就労の支援	女性起業家育成講座受講生による創業・起業件数(累計)	4件	2件	4件	4件	5件	7件	9件	10件(累計)
	障害者の福祉施設から一般就労への移行人数(累計)	44人	22人	42人	61人	81人	98人	118人	140人(累計)
2 移住・定住したくなるまちづくり	転入者数(累計)	0人	△24人	372人	327人	615人	1,190人	1,175人	1,500人超過(累計)
2-1 「移住定住」と「Uターン」の促進	Uターン就職促進事業による市内企業への就職者数(累計)	-	27人	65人	98人	128人	152人	168人	210人(累計)
2-2 磐田のブランド力の強化とシティプロモーションの推進	地域ブランド調査魅力度全国ランキング	430位	398位	513位	486位	600位	483位	527位	350位以内
2-3 新たな交流・集客の推進	観光交流客数	357万人	357万人	377万人	393万人	376万人	360万人	227万人	395万人
3 若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり	合計特殊出生率	1.56	1.50(H26)	1.47(H27)	1.58(H28)	1.56(H29)	1.46(H30)	1.46(H30)	1.60
3-1 仕事と子育ての両立支援	待機児童数ゼロの継続	0人	0人	0人	0人	6人	5人	1	0人
	父母いずれか若しくは双方の育児休業取得率	70.0%	-	83.8%	82.9%	82.7%	85.8%	87.6%	86.0%以上
3-2 結婚・妊娠・出産及び子どもの成長・発達支援の充実	これからも磐田市で子育てをしたいと思う親の割合	66.8%	-	96.9%	97.2%	97.0%	97.2%	97.2%	98.0%
	婚姻数	861件(H25)	847件(H26)	808件(H27)	777件(H28)	770件(H29)	675件(H30)	675件(H30)	900件
4 子どもたちが健やかに成長するまちづくり	学校に対する満足度(児童生徒・保護者)	-	87.2%	82.1%	88.2%	87.2%	88.6%	88.4%	90.0%
4-1 特色ある教育の推進	英語への興味・関心・意欲のある児童生徒の割合	70.18%	78.5%	79.5%	80.4%	79.4%	80.5%	81.1%	88.0%以上
	地域や社会への興味・関心のある児童生徒の割合	60.9%	60.9%	61.5%	59.4%	65.2%	72.5%	67.8%	75.0%
4-2 ふるさとへの誇りと愛情を持った子どもの育成	学校卒業後磐田市に就職を希望する高校生の割合	34.0%	34.0%	37.2%	39.3%	37.4%	40.5%	38.7%	50.0%
5 安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり	「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合(「磐田市に住み続けたい」と答える市民の割合)	-	87.9%	-	-	-	-	92.4%	90.0%以上
5-1 安全で安心なまちづくり	緊急輸送路上の橋梁の耐震化率(橋長15m以上)	70.6%	82.4%	88.2%	88.2%	88.2%	88.2%	94.1%	94.1%
	犯罪発生件数	1,044件	1,014件	1,007件	980件	912件	750件	744件	700件以下
5-2 だれもが暮らしやすいまちづくり	お達者な人(65歳以上の要介護認定なし+要介護1以下)の割合	92.0%	92.28%	92.19%	92.20%	91.90%	91.94%	91.89%	93.0%以上
5-3 地域コミュニティの活性化	自治会加入率(世帯)の維持	83.16%	83.16%	82.51%	81.42%	82.72%	81.64%	80.36%	83.16%
	交流センター利用者数	603,624人	633,352人	643,172人	642,978人	631,370人	618,105人	569,353	650,000人

※調査時点の最新数値